

群馬県の太陽光発電設備導入容量は全国8位

～上位5市で全体容量の過半数を占める～

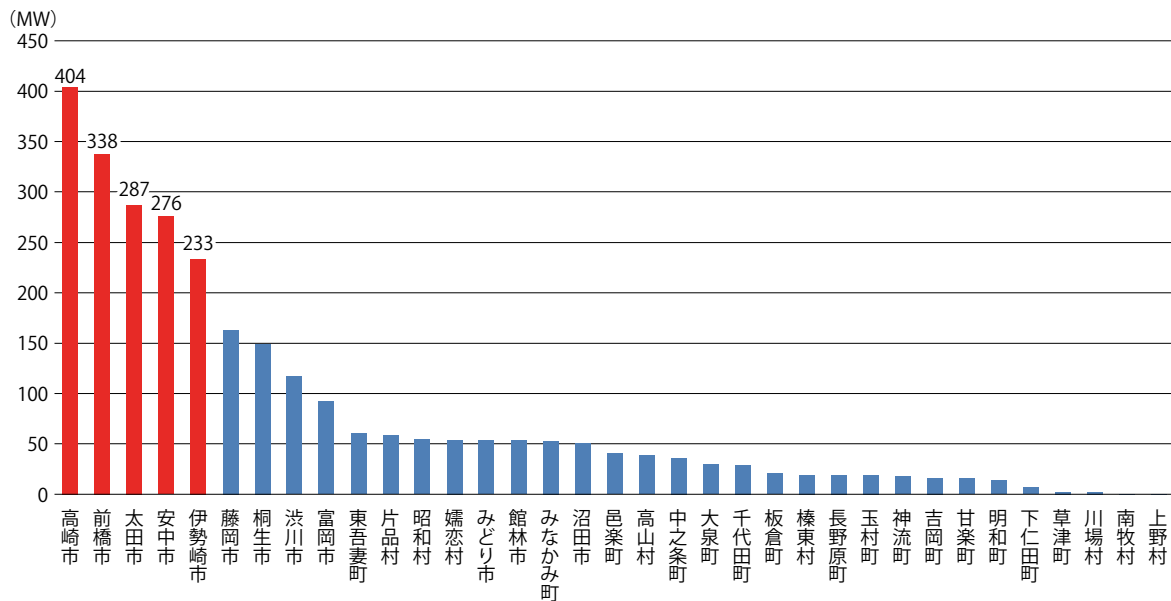
○群馬県は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度に基づく太陽光発電設備の「導入容量」（2024年12月末現在）で、全国8位となっている（図表1）。

○群馬県内の導入容量を市町村別にみると、高崎市（404MW）が最大で、前橋市、太田市、安中市、伊勢崎市が続いている（図表2）。上位には、人口や経済規模の大きい市が並んでおり、設置事業所や住居等が多いことが要因と考えられ、上位5市で県全体の過半数（54%）を占める。なお、4位の安中市では、県内最大の太陽光発電所である「群馬発電所」（82MW：クリーンエネルギー研究所合同会社）と、それに続く「安中市太陽光発電所」（63MW：群馬安中太陽光発電合同会社）の2つの大規模太陽光発電設備（いわゆるメガソーラー）の存在が大きい。

図表1 都道府県別の太陽光発電設備導入容量（2024年12月末現在）

順位	都道府県	導入容量（MW）
1	茨城	4,676
2	千葉	3,550
3	福島	3,370
4	愛知	3,274
5	栃木	3,256
6	兵庫	3,156
7	三重	2,982
8	群馬	2,839
	全国平均	1,595

図表2 県内市町村別の太陽光発電設備導入容量（2024年12月末現在）



資料出所：資源エネルギー庁「固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト」

- ・「導入容量」とは、太陽光発電システムが1時間に発電可能な最大電力を示す数値。「kW（キロワット）」で表示され、数字が大きいくほど多くの発電が可能。1 MW（メガワット）＝1,000kW。
- ・固定買取制度とは、2012年より開始した、再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）で発電された電気を、電力会社が一定期間、一定価格で買い取ることを国が約束する制度。ここでは同制度以降の「新規認定分」とそれ以前の「移行認定分」の合算数値を指す。

（担当：櫻澤広祥）